

## 2.2 近年の災害による被害

### (1) 東日本大震災の被害

#### ① 概要

平成23年3月11日14時46分、太平洋三陸沖で、M9.0、日本観測史上最大の巨大地震が発生した。震源域は、東北地方から関東地方にかけての太平洋沖の幅約200km、長さ約500kmの広範囲に及ぶもので、千葉県においても印西市と成田市の一部で震度6弱を観測したほか、市内でも震度5弱を観測し、32名が負傷した。また、長時間のゆれに伴って広範囲で液状化が発生した。液状化は、特に沿岸部の埋立地において顕著に現れ、地盤沈下や家屋の傾き、地中構造物の浮き上がりが発生させた。

この地震により発生した津波は、岩手県大船渡市で高さが16.7mに達し、最大遡上高は40mを超えた。千葉県においても、銚子市で2.5m、館山市で1.7m、湾内の千葉市でも0.9mの高さを記録したほか、本市でも2mを超える津波の影響で、海苔の養殖設備が壊滅的な被害を受けたほか、船橋漁港内の船が転覆するなどの被害が発生した。



▲ 船橋漁港(津波による被害)

福島第一原子力発電所では、全電源を喪失し、原子炉や核燃料の冷却をすることができなくなったことにより、水素爆発が発生するなど大量の放射性物質の放出を伴う大事故を併発した。

#### ② 市の被害状況

家屋の倒壊や液状化によって、市でも多くの被害が発生した。特に沿岸部の潮見町や日の出・栄町・若松などでは液状化による被害が深刻であった。

また、鉄道機関が運休したことにより、船橋駅、西船橋駅を中心に帰宅困難者が大量に発生した。市は発災当日深夜には57の施設を避難所として開設し、5,480人の避難者・



▲ ふなばし三番瀬海浜公園(液状化による被害)

帰宅困難者を受入れた。市による帰宅困難者への物資援助のほか、周辺の事業者からの食料品や備品等の支援も受けて対応を行った。

▼ 東日本大震災による市の被害状況

被害項目等		被害状況
人的被害		32名(重傷2名、中軽傷5名、軽傷25名)
建物被害		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人住宅等について、全壊14件、大規模半壊189件、半壊318件、一部損壊4,607件、物損他265件 (うち液状化の影響が見られたもの1,123件)</li> <li>※平成24年2月27日現在の「罹災証明書」の発行数をもとに集計</li> <li>○ 市内の小・中学校、高校(特別支援学校含む)のうち76校で外壁損傷や校舎床にひびなどが発生するなど、公共施設でも多数の被害</li> </ul>
ライフライン被害	上水道	30戸で断水発生
	ガス	高根台、本町、薬円台、芝山ほか200件でガス漏れ発生
	電気	高瀬町、若松、浜町、日の出、西浦、潮見町などの住宅約2,500戸で停電発生
	道路等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日の出、栄町、潮見町、西浦、高瀬町などの約400か所で液状化による土砂流出等の発生</li> <li>○ 10か所で橋梁の破損</li> <li>○ 1か所でがけ崩れの発生</li> <li>○ 83件の石塀・ブロック倒壊</li> </ul>
	下水道	若松などの11か所で下水道管詰まり、マンホール付近陥没、処理場躯体亀裂等(市所管分)
	通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東日本電信電話の管内では、高瀬町、若松、浜町、日の出、西浦、潮見町の88本の電柱が破損(ケーブルの途絶はなし)</li> <li>○ 携帯電話の輻輳の発生(震災当日の23時頃には概ね解消)</li> </ul>
	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内を走る9路線は全て運休(大きな被害はなし)</li> <li>○ 船橋駅、西船橋駅では大量の帰宅困難者が発生</li> </ul>

出典：『<東日本大震災>船橋市の被害状況及び一連の対応に関する記録』(平成24年3月 船橋市)

## (2) 風水害による被害

市における主な水害は、昭和51年6月の集中豪雨、昭和52年7月の雷雨、昭和53年7月の集中豪雨、昭和56年10月の台風第24号、昭和57年9月の台風第18号、昭和59年7月の大雨などがあり、昭和61年8月の台風第10号の接近時には床上浸水352戸、床下浸水997戸の過去最大の浸水被害があった。

これら浸水被害の原因は、第1に市内を流れる河川の河幅が狭小で、かつ蛇行した小河川が入り込んでいること、第2に近年の急激な市街化の進展により農地・山林等の保水・遊水機能を持つ土地が減少したため、海老川及び上流各支川流域の雨水が短時間に流出し、河川が増水したことなどによるものであった。このため、被害発生が目立つのは市街地の中心部を流れる海老川、長津川沿いの低地地域で、浸水面積全体の約9割を占めている。

市では、水害発生のおそれのある地域に対し、水害の防止・発生の監視に努め、その結果、海老川、長津川の調節池と河道改修による時間雨量50mm対応や下水道(雨水)整備等が進むにつれて、大きな浸水被害は減少している。

近年の被害としては、令和元年房総半島台風(台風第15号)及び令和元年東日本台風(台風第19号)において、市内で約53,000軒が停電したほか、風雨により家屋の半壊21件、一部損壊953件など、大きな被害を受けた。(令和2年11月10日現在)

そのほか、大正6年10月の大正6年台風の際には東京湾沿岸に高潮が発生した。船橋大神宮の石段まで浸水し、沿岸部から内陸にかけて甚大な被害を受けた記録が残されている。また、平成24年9月には、突風(竜巻)が発生し、全壊1棟をはじめ、豊富町から金堀町付近で多数の建物被害が発生した。



▲ 昭和61年8月、台風第10号による大雨で増水した海老川。被害を最小限に食い止めるため、夜を徹して作業が続けられた。(出典:広報ふなばし 昭和61年9月15日号)